

第13章 現代陶芸美術館

陶芸の現代とは何かをテーマとし、新しい価値を創造し提案する。国際的視野に立ち内外の作品紹介と人的ネットワークの構築を図り、美術館の枠を超えて地域と連携するなど広い視野をもち、多様な情報や体験を通じて愉しく陶芸に接することができる美術館活動を目指している。

現況

1 現代陶芸美術館の概要

(1) 施設の概要

設置場所 多治見市東町4-2-5 セラミックパークMINO内
建築延面積 4,572 m²
建築構造 鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨コンクリート造
展示室は、並進振子免震システムを採用

(2) 主な施設 ギャラリー、ギャラリー、プロジェクトルーム

(3) 施設の利用

- ア 観覧時間 午前10時から午後6時まで(ただし、入館は午後5時30分まで)
イ 休館日 月曜日(ただし、月曜日が休日の場合はその翌平日)
年未年始(12月29日～1月3日)
ウ 観覧料金 <常設展>
・高校生以下無料・大学生 210円(160円)・一般 320円(260円)
()は20名以上の団体の場合
<企画展>
・別に定める(企画展の観覧券で常設展も観覧できる)

(4) 活動の概要

ア 収集の特徴

国内外の近現代(19世紀末以降)に絞り、世界のあらゆる地域の陶芸作品を収集する。また、これまで美術館の収集対象とならなかった実用陶磁器などを再評価するとともに、地域の陶磁器産業振興に資するという視点から、モダンデザインの系譜としての産業陶磁器やマイセン、セーブル、ローゼンタールなどの名窯の産業陶磁器も収集する。

平成23年度末現在において保管作品合計1,600点(収蔵品1,528点+寄託72点)、日本以外に海外の28の国と地域の作品を収蔵している。

<おもな収蔵作品>

- ・ 富本憲吉「色絵金銀彩四弁花模様飾壺」
- ・ 宮川香山「浮彫蓮子白鷺翡翠図花瓶」
- ・ 荒川豊蔵「志野水指」
- ・ 八木一夫「頁1」

イ 展示活動

ギャラリー では企画展示を、またギャラリー においては収蔵品を中心とした展示を展示室ごとに小企画展として開催する。

ウ 教育普及活動

陶磁器文化に関するすぐれた情報を来館者に提供するべく、これまで美術館内デジタルライブラリーコ-ナ-において、機器を使用して情報を公開してきた。しかし、機器の老廃化にともない使用が困難になってきた。そこで平成22年度より資料を整理し、収蔵品目録にしたり、オリジナルソフトについては映像として提供したりしている。また、陶磁器に関するクイズコ-ナ-を設けて、来館者に楽しんでいただいている。

プロジェクトル-ムにおいては、美術館を身近に親んでもらうための教育普及セミナーを開催したり、教育関係者の会議や研究発表にも開放したりしている。来館者の平均年齢は高いうえ、地域には陶磁器産業に従事する人々が多く、専門的な知識を有する人が多い。そこで、特に大人を対象とした専門性の高いセミナー（サタデ-キャンパス）を開催することで、地域の活性化に貢献する。また、地域、学校との連携をはかり、子どもたちが美術館に親しみをもち、鑑賞を楽しめる美術館のあり方を探る。

2 平成23年度の事業概要

(1) 展覧会事業

ア ギャラリー の展示

企画名	会期	内容
華麗なる近代洋食器の展開 - オールドノリタケを中心に -	平成23年4月23日～ 8月21日	明治期に各窯業地で作られた輸出用陶磁器及びオールドノリタケに焦点を当て近代洋食器の変遷を概観する展覧会。
ロイヤル コペンハーゲン・ ピング オ- グレンダ-ル	平成23年9月16日～ 11月27日	個人コレクションのア-ルヌ-ヴォ-期における多彩な作品とともに、同時期の日本の釉下彩作品を併せて紹介する展覧会。
岐阜県陶磁器試験場の100年 展	平成22年12月10日～ 平成23年3月25日	試験場100周年を記念し、その足跡について関連作品などを通じて紹介する展覧会。

イ ギャラリー の展示

展示室	企画名	会 期
A B C D	土のみた夢 A 華麗なる洋食器の競演 B 小さなオブジェの森 C D 粋なうつわの語らい	Part2 平成22年8月7日～平成23年6月30日
A B C D プロジェクトルーム	岐阜県美術展	平成23年7月16日～7月24日
A B C D	大地の子どもたち2011	平成23年7月30日～8月28日
A B C D プロジェクトルーム	モザイクビエンナーレ'11 アール・ブリュット美濃展 モザイクビエンナーレ'11	平成23年9月16日～10月23日
A B C D	アラビア×フィンランド陶芸	平成23年11月12日～平成24年2月12日
A B C D	井田照一展	平成24年2月21日～7月1日

(2) 教育普及事業

開催日	タイトル・内容等
4月23日	講演会「戸棚のすみのティーカップから日本の洋食器誕生を辿って」 講師：守屋知子氏（近代陶磁器研究家）
5月3・4・5日	ゴールデンウィーク特別企画として「親子鑑賞会」の実施
5月3日、8月7日	ワークショップ「チャイナペイント（絵付け）実演」 講師：若宮孝章氏（ノリタケの森アーティストクラブ主任講師）
5月21日 6月18日 7月9日	ワークショップ「洋食器のある風景」 講師：内藤さゆり氏（写真家）
7月30日	講演会「土による造形教育の可能性」

	講師：中島晴美氏（陶芸家、愛知教育大学教授）
8月7・21日	ワークショップ「土とあそぼう ～日常でつかえるものをつくろう」 講師：作陶館スタッフ
8月20日	ワークショップ「オリジナルプレートを作ろう」 講師：いしかわゆか（切り絵作家）
10月1日	ワークショップ「わくわくキッズテーブル 親子でテーブルマットを作ろう」 講師：松井由紀美（テーブルコーディネーター）
10月2日	講演会「デンマークのオールヌーヴォー磁器」 講師：塩川博義（日本大学教授）
11月3日	文化の日美術館開放特別企画「特別鑑賞会」 デンマーク・スタイルの器鑑賞会 ちょっと変わった鑑賞会 実施
1月21日	ワークショップ「おいしいコーヒーとフィンランド」 講師：中垣文寿（SHERPA COFFEE）
1月28日	岐阜県陶磁器試験場の100年展記念鼎談 加藤孝造（陶芸家）・伊藤慶二（陶芸家）・榎本徹（岐阜県現代陶芸美術館長）
毎週日曜日	ギャラリートーク 学芸員による解説（ギャラリー） ポランティアによる解説（ギャラリー）
毎月第4土曜日	サタデ・キャンパス プロジェクトル・ムを活用し、展覧会に関する講座を開設して、各学芸員が講師を担当
その他	セラミックパークの催事等に合わせて「親子鑑賞会」の実施 特別企画「美術館ツアー」を地域の学校（美術クラブ・美術部）を対象に実施

(3) 平成23年度 企画展(ギャラリー) 観覧者数

展覧会名	小中高生	個人		団体		免除招待	計	開館日数
		大学生	一般	大学生	一般			
華麗なる近代洋食器の展開 - オールドノリタケを 中心に -	223	94	3,542	0	448	1,625	5,932	105
魅惑の北欧オール・ヌーヴォー - 塩川コレクション ロイヤル コペンハーゲン・ ピング オ - グレンダ - ル	909	43	13,489	0	311	3,078	17,830	67

岐阜県陶磁器試験場の 100年展	90	84	2,415	27	99	1,021	3,736	86
計	1,222	221	19,446	27	858	5,724	27,498	258

平成24年度の事業計画

1 展示活動

(1) 平成24年度展示の目的

- ・世界陶磁器文化首都を目指す施設にふさわしい展覧会を開催する。
- ・日本の近代陶芸史に重要な役割を果たした人物を紹介する。
- ・収蔵品を恒常的かつ効果的に紹介し、文化振興に資する。
- ・新聞社などとタイアップすることで、美術館の存在を幅広くアピールする。

ア ギャラリー の展示

企画名	会期	内容
2012年春展 ポップ 命を抱いて	平成24年4月21日～ 8月19日	ポップ：ポップアートに通じる特徴を持った作品や造形や、表現の点で「ポップ」な感覚の作品を紹介する展覧会。 命を抱いて：抽象的なのにどこか生き物を思わせるまるで命を宿したような作品を紹介する展覧会。
MINO CERAMICS NOW Part 2	平成24年9月1日～ 11月11日	2004年に開催された同展のPart 2となるもので、県下で活躍を続ける陶芸作家や陶磁器デザイナーの作品によって、現在、そしてこれからのMINOを紹介する展覧会。
小早川コレクション 麗しのマイセン人形	平成24年11月23日～ 平成25年5月6日	当館に寄贈・寄与された小早川コレクションを一同に展示し、マイセン人形の魅力を紹介する展覧会。

イ ギャラリー の展示

展示室	企画名	会期
ABCD	井田照一展 - 土に挑む -	平成24年2月21日～7月1日

A B C D プロジェクト・ム	岐阜県美術展 多治見移動展	平成24年7月14日～7月22日
A B C D	岐阜県ゆかりの人間国宝展 - 美濃陶芸の系譜 -	平成24年8月4日～12月24日
A B C D	ミュージアムひだ・コレクションとともに アジア・木と土にみる“みんなのかたち”	平成25年1月12日～4月14日

2 教育普及活動

(1) 平成24年度の目的

- ・ 展示内容と関連した「セミナー」を開催して、作品や作家についての理解を深める。
特に、隔月第4土曜日には、「サタデ - キャンパス」を開催する
- ・ 学芸員やボランティアによる「ギャラリー - トーク」で、鑑賞の支援をする。
また「親子鑑賞会」を実施して、親子のふれあいを通し、美術館への関心を高める。
- ・ 児童・生徒向けの「ワークショップ」を開催することにより、作品鑑賞や創造活動に触れる機会をつくる。
- ・ 学校との連携を図り、美術館教育を推進する。
特に、「美術館ツアー」を実施して、学校における文化部（クラブ・部活動）の活性化の一助とする。

(2) 教育普及事業の実施計画

開催日	タイトル・内容等
4月29日 5月5日 8月4日	現代陶芸美術館・多治見市図書館共同企画「美術館でおはなし会」 おとなのばん こどものばん
5月6・13・ 20・27日	5月特別企画として「親子鑑賞会」の実施
5月3日	国際陶芸フェスティバル招待作家展 in MINO 関連企画「道川省三氏スライドレクチャー」(国際陶芸フェスティバルinささまアートディレクター)
8月	夏休み特別企画としてワ - クショップ『親子で作陶体験』 夏休み特別企画として「親子鑑賞会」の実施

11月3日	文化の日美術館開放特別企画「館長トーク」の実施
毎週日曜日	ギャラリートーク 学芸員による解説（ギャラリー ） ボランティアによる解説（ギャラリー ）
10-3月(月1回)	ワークショップ「陶芸作家に学ぼう」
隔月第4土曜日	サタデ - キャンパス プロジェクトル - ムを活用し、展覧会に関する講座を開設して、各学芸員が講師を担当
その他	セラミックパークの催事等に合わせて「親子鑑賞会」の実施 特別企画「美術館ツアー」を地域の学校（美術クラブ・美術部）を対象に実施

岐阜県現代陶芸美術館ホームページ

<http://www.cpm-gifu.jp/museum/>